

第2回たかいし学校創生基本構想検討協議会会議録

開会及び閉会の年月日時

開会	令和8年7月31日 午後3時00分
閉会	令和8年7月31日 午後5時00分

会議に出席した者の職及び氏名

委員	高石市立高石小学校 PTA 副会長：朝倉 啓仁 武庫川女子大学建築学部 教授：中江 哲 和歌山大学教育学部 教授：二宮 衆一 高石市立取石中学校 PTA 会長：東野 真人 高石市立高石中学校 校長：吉田 種司
事務局	教 育 部 長 ：石坂 秀樹 教育部理事兼次長：石栗 雅彦 教 育 部 次 長 ：山崎 陽子 教 育 総 務 課 長 ：吉村 智博 教育総務課長代理：水谷 亘 教 育 総 務 課 係 長 ：大畠 翼 学校教育課主幹 ：東 雄 太 有限責任監査法人トーマツ

議題及び議事の要旨及び議決事項

1. 開会

2. 議題

(1) 会議の傍聴について

－	傍聴許可に異議なし。13名傍聴。
---	------------------

(2) 第1回の振り返りについて

事務局、コンサルタント	資料説明。
A 委員	地域の方に施設を使っていただくという話があったが、調理室等を地域開放する場合、子どもたちが使う施設でもあるので不安な面がある。そのあたりは、利用者側に何かルールを設ける等あるのか。
事務局	他自治体の図書館の事例では、子どもたちが利用する時間帯には地

	域利用側を閉鎖し、夕方以降は校舎側を閉めるなど、動線を分けて運用している。
A 委員	現在の校舎構造では、そのまま適用するのは難しい部分もある。一方で、図書館や家庭科室等、活用できる施設については地域へ提供していくという考え方はあると思う。
事務局	地域利用を進めるのであれば、施設配置や動線も含めて考えていく必要があると考えている。
B 委員	安心安全のために動線を分けることは大事である。同時に、自由に行き来できる方が、学校と地域の連携・交流の促進につながると考えられる。この2つをどう調和させるのがよいか。
事務局	これからの学校のあり方として、「地域とともに」を明確化していくことを考えている。他自治体の事例では、有人でセキュリティ対応をしたり、1階に共用施設を配置したりというものがあつた。これらを踏まえ、今後検討していきたい。
事務局	他自治体の事例では、コンシェルジュとして中心となる人材が来訪者のマッチングなどを担い、交流を促す仕掛けづくりになっていた。

(3) 有識者による高石市の教育について

有識者	資料説明。
A 委員	わたしが学校教育に携わり始めた頃は、40人から45人程度の子どもが教室で一斉に前を向き、先生が黒板に書いたことをノートに写す授業が中心だった。知識や記憶力が重視されていた時代だったと思う。 しかし今の中学校では、そのような学習はほとんどない。タブレットで個別学習し、その内容をグループで話し合い、プロジェクター等で共有しながら学んでいる。昔はコンピュータ教室だけに大型の機器があり、そこだけが特別な学習空間だったが、今は一人一台に端末がある時代である。学習環境が変わる中で施設も変わるべきと思う。 今後、改築や新築を行う際には、様々な学校の事例を参考にしながら、良いところを取り入れていくと、良いものになると思った。
C 委員	自分が受けてきた教育を振り返ると、学校というのは一定の枠組みに適応できる人が評価され、そうでない人は取り残されるような側面もあったように思う。一方、今の教育は、一人ひとりを大切に見ていこうとしていると感じる。変化が激しい社会においては、変化に対応する力や違いを尊重する力が育まれる教育環境が必要だと思う。 また、自分自身が福祉の仕事をしているため、イギリスの拡張学校の取り組みに共感した。学校だけでなく、福祉や保健、地域支援等を含め

	た統合的な支援体制が重要と考える。学校だけで対応が難しい子どもへの支援には、福祉や保健の専門職の力が必要である。大人が増えることは見守りにもつながり、防犯面でも効果があると思う。
D 委員	子ども会活動を通じて子どもたちと関わっている。高石市には高石市なりの個性や特徴があるので、高石らしさをどう生かしていくのかという視点で、この検討協議会で意見を出していければと思う。

(4) たかいし学校創生基本構想の方向性を踏まえた施策の方向性について

事務局	資料説明。
C 委員	学力を高めることに加えて、人格形成や道德教育の視点も大切ではないか。子どもたちは学校で長い時間を過ごすため、先生方は手本になる。問題解決能力や人間関係の構築等、学校は社会の縮図だと思うため、そのような人格形成の視点も重要だと感じた。
A 委員	道德教育は教科化されており、日常の学校生活全体を通じて心の育成を図っている。 今回示された「生涯にわたって学び続ける力」という考え方は非常に重要だと思う。AI の発展など社会が大きく変化する中、自ら学び続ける力を育てていく必要があるので、分かりやすい整理になっていると感じた。
E 委員	全体としては良いと思う。ただし、今後のめざす方向性の「子どもたちに身につけさせたい力」に関し、「知識や技能」が最初に置かれていることについては少し気になった。他の2つと並列的な関係であれば、順番による優先順位がないような見せ方でも良いのではないかな。 また、施策体系図案について、左側の「誰が元気になるのか」という視点を強調しなくても良いのではないかと感じた。全体を見れば、子ども、教職員、地域の三者につながっていることは読み取れる。 なお、この施策体系図案の位置付けを教えてください。議論のための整理資料なのか。
事務局	「子どもたちに身につけさせたい力」に記載した3つの力については、優先順位を付けているものではなく、相互につながるものとして整理している。特に「生涯にわたって学び続ける力」は、高石市として非常に重視している考え方であり、社会に出た後も学び続けていく力を育てたいという思いを込めている。 また、施策体系図案は現時点では議論のための整理資料である。今後皆様からの意見を踏まえながら修正していくものであり、このまま掲載するものではない。

B 委員	全体として個人の成長や自立という視点が強く表現されているように感じたが、他者との協働という視点も必要ではないか。強い個人をもとめることで、しんどくなる子どもたちがいるかもしれない。お互いに関係をつくりながら育ちあうという視点もあってもよいのではないか。 アンケートから、子どもたちが学力だけでなく「心が落ち着く環境」を求めていることも分かっている。学校教育なので、学びが中心になることは間違いないが、学びの土台として、安心して過ごせる環境づくりが必要だと思う。多様な居場所の確保、子どもが行きたいと思える学校という視点も加えることを検討してほしい 最後に、豊かな学びや創造的な活動のために地域と連携していく、子どもたちの生きづらさをサポートするために地域の力、福祉の専門職等の力を借りるという視点も検討してほしい。
E 委員	人との直接的な関わりは非常に大切だと思う。学校には生身の人と人が空間で直接つながる価値があると思う。友達や先輩との関係の中で、学びや憧れが生まれ、助け合いも育まれる。こうした互惠的なつながり、リアルな人間関係を育てることが学校の大きな役割だと思う。ネットではできないことである。
A 委員	コロナ禍で子どもたちが学校へ来られなくなった時期があったが、友達と一緒に学ぶ価値を改めて強く感じた。 現在の学校では個別学習だけでなく、グループ学習を通じて、他者の意見を取り入れながら学ぶ活動を積極的に取り入れている。個人の力だけでなく、仲間と共に学び、作り上げていく力も取り入れてほしい。

(5) その他

事務局	資料説明。
B 委員	学校施設の有効利用についてのアンケートは、どのような内容を想定しているのか。
事務局	現在、学校施設としては体育館や運動場を主に開放している。今後は、家庭科室や技術室、美術室なども活用できないかと考えている。また、放課後や長期休業中の施設利用について、子どもたち、保護者を含め市民の皆様及び教職員の意向を把握するための設問を予定している。

3. 閉会

以上